

〈2〉作新学院大学と連携した 清原地区のまちづくり

清原地区市民センター 総括 野上 勇

1 はじめに

清原地区のまちづくりは、「産・学・住・農・遊・交・商」の調和のとれたまちづくりを目的に、清原地域振興協議会（以下「清振協」という）を中心に人的・物的な地域資源を活用しながら、地域が一丸となり進めている。

大学も地域資源であり、まちづくりの一員として平成元年設立以降、さまざまな協力を得ている。清振協と作新学院大学は「包括的な連携に関する協定書」の締結（平成27年）を機に連携を強化し、大学の専門性や広範なネットワーク、学生の力などを活用しながら、魅力と活力のあるまちづくりに取り組んでいる。ここでは、その概要を報告する。

2 地区の概況

清原地区は、市の中心部から東に10km、JR宇都宮駅から約8.5kmに位置し、約42km²の面積を有している。テクノ地区の最近の発展により、人口は若年世帯を中心に急激に増加しており、平成29年1月現在、28,897人、12,382世帯である¹。

地区の西端を流れる鬼怒川左岸の平坦地と東部の台地からなる。地区の北部と南部は、果樹や施設園芸などの畑作を中心とした農業地帯で、本市を代表するナシやトマトなどの主要な生産地となっている。中央部は、文教施設、大規模住宅団地、大規模小売店舗、工業団地等が立地しており、地区住民の生活や本市の産業活動の中枢になっている。

歴史・文化においても、古墳や城郭などの史跡や天祭やお囃子などの民俗芸能があり、これらは長い歳月の中で地区の風土とともに育まれてきた。特に中世の「飛山城跡」は、清原地区で最も重要な歴史遺産である。

また、地区内には栃木県グリーンスタジアムや清原球場などのスポーツ施設があり、プロスポーツチームの公式戦が行われるとともに、宇都宮マラソン大会やJプロツアー宇都宮クリテリウム、うつのみや花火大会が行われている。

幹線道路として、国道は123号・408号・121号、県道は主要地方道宇都宮向田線・宇都宮茂木線がある。さらに、「板戸大橋（新鬼怒川渡河道路）」、「国道408号宇都宮バイパス」の開通や新交通システム（LRT）の導入が決定した。公共交通であるさがけ号、のぞみ号、南部デマンドと組み合わせることで、地区内の公共交通網の充実が図られていくことになる。

3 清原地域振興協議会とその活動

(1) 清振協の発足

清振協は、地域の発展と住みやすいまちづくりを推進するべく、自治会連合会をはじめ、各団体が協力して取り組んでいくための母体として昭和59年に発足した。

「オール清原の力で、未来へのまちづくりにダッシュ！！」をスローガンに掲げ、工業団地の造成、大規模宅地の開発などにより、地区が大きく変わりゆく中、さまざまな課題を地域一体で解決すべく各種活動に取り組んできた。具体的には、「きよはらの10年後のあるべき姿」として「清原地域ビジョン」の作成やまちづくりを担う人材を育成する「人材育成講座」の開催、地区防災マニュアルを作成し全戸配布するなど、多くの実績を上げている。

¹ 平成28年6月には、既存小学校の分離新設が決定した。

(2) 清原地域ビジョン

平成24年3月に策定した「清原地域ビジョン」には、以下の8つの重点課題を設定している。

- ①「地域交流拠点（テクノ区域）をつくり高める」
- ②「交通基盤・機能を強化・活用する」
- ③「プロスポーツチームが活動しやすい環境をつくる」
- ④「企業との交流を深める」
- ⑤「『食』をつくり届ける」
- ⑥「人々が憩い集えるまちをつくる」
- ⑦「快適に暮らしやすいまちをつくる」
- ⑧「災害・犯罪に強いまちをつくる」

この課題ごとに、公共交通（L R T・地域内）、環境問題、安全・安心なまちづくり、産業の4つの特別委員会やテクノ地区、スポーツによるまちづくりの2つの専門部会を設立して活動している。

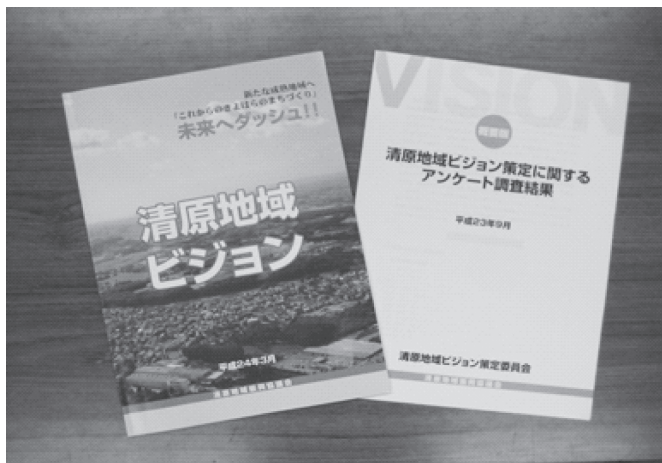


写真1 清原地域ビジョン

出典：清原地域振興協議会

(3) 清振協の年間活動

清振協は、年間を通してさまざまな事業に取り組んでいる。地域からの要望の取りまとめや、市長が同席する「まちづくり懇談会」の開催、地域の情報を発信する「情報きよはら」の発行、農業祭・文化祭などの地域事業への支援など、地域に密着した活動を行っている。また、本市主催の「宇都宮マラソン大会」において、鬼怒の船頭鍋7,000食を無料配布（おもてなし事業）したり、

L R Tの早期実現に向けて講習会の開催や意見の取りまとめをするなど、市の事業への協力・支援にも精力的に取り組んでいる。

4 作新学院大学との連携

平成27年3月23日、作新学院大学（太田周学長）と清振協（菅沼栄一会長）は「包括的な連携に関する協定書」を締結した。

協定の目的は相互の包括的な連携のもと、清原地域の拠点性及び生活環境の向上とともに、適正な危機管理により地域の防災・減災力を強化し、もって賑わいのある安全で魅力的なまちづくりを推進するものである。



写真2 調印式

出典：作新学院大学

これまでも作新学院大学と清振興は地域で開催されるイベントへの参加や防災訓練、清原のまちづくりをテーマとしてゼミなどでの大学内施設の提供など、さまざま連携を図ってきた。しかし、清原地域のまちづくりに関する課題の解決に向けた専門的な知識や人材の支援・活用が求められる中、作新学院大学において、県内プロスポーツチームによるまちづくりや地域の防災・減災対策に関する専門組織が整備されたことから、こうした大学の有する専門性と地域が蓄積してきたまちづくりのノウハウなど、それぞれの知的資源や人的資源、物的資源の相互活用をより一層図ることとし、協定を締結したものである。

5 地域と大学が連携したまちづくり

(1) 協定書に基づく取組

協定締結を機に、作新学院大学と連携・協力し、新たな地域活性化や人材育成講座にも力を入れている。平成27年3月には、「清原活性化の起爆剤!!スポーツによるまちおこしを考える」をテーマに、プロスポーツチーム宇都宮ブリッツェン、栃木SC、リンク栃木ブレックスの代表たちとの太田正氏（作新学院大学経済学部長）による講演やパネルディスカッションを開催した。ここで、スポーツによるまちおこしについて議論を深め、大学と各スポーツチーム、地域が合同で行うスポーツ交流イベントの開催についての提案を受け、次年度の「清原スポーツ祭典」の開催に至った。



写真3 パネルディスカッション

出典：清原地域振興協議会

平成27年5月に公開講座として開講された「環境論とリスクマネジメント」では、小祝章二氏（栃木県県民生活部危機管理監）、稲葉茂氏（栃木県防災士会理事長）、太田周氏（作新学院大学学長）を講師に、防災・減災の政策方針や危機管理など、各講師の専門分野を活かした多彩な授業が行われた。清原地区からは清振協会長等が受講・修了した。

平成28年には、太田周氏（作新学院大学学長）、稲葉茂氏（NPO法人栃木県防災士会理事長）を招き、「清原地区の防災を考える」をテーマにした講座を開催した。災害への備えや実技（非常食の作り方など）、避難所の出来事や避難者対応を



写真4 公開講座

出典：作新学院大学

ゲーム感覚で模擬体験できるHUG（ハグ）を体験し、さらなる地域防災意識向上を図った。

なお、県民と企業などの危機管理の体制を強化し地域の総合的な減災力の向上を図ることを目的に、栃木県防災士会や宇都宮市の協力のもと作新学院大学内に設立された「減災・リスクマネジメント推進センター」の副所長として、清振協会長（菅沼栄一氏）が就任している。



写真5 HUG（ハグ）

出典：清原地域振興協議会

(2) 防災訓練

協定締結以前の防災訓練は、初期消火訓練や煙体験訓練などの災害発生時における応急対策を主な目的としていた。協定締結後は、清原地区防災会と作新学院大学が連携し、従来の目的に加え、より実践的な訓練として、広域災害に対応するための災害対策本部設営・運営訓練を取り入れた。平成27年から作新学院大学のサッカー場を会場に、

自治会防災会や地区社協，作新学院大学減災・リスクマネジメント推進センター，消防団清原分団，清原地区市民センターなど，約300名が参加し，訓練を行っている。当日は，減災・リスクマネジメント推進センター監修の下，情報収集・伝達，本部運営，避難場所開設などの「災害対策本部訓練」と初期消火，救命，炊き出しなどの「災害発生時における応急対応訓練」などを実施している。本部訓練にあたっては，地区内のライフラインの被災状況や負傷者等の情報収集，中学校へ避難所設置，市災害対策本部へ救援要請など，実践さながらの訓練を行っている。



写真6 情報収集訓練
出典：清原地区防災会

(3) 清原スポーツ祭典

前述のスポーツによるまちおこしに関する講座を契機に，平成27年に清振協で「スポーツによるまちづくり専門部会」を設立し，プロスポーツチームと連携したまちづくりについて協議を重ねてきた。この中で，新たにスポーツに親しむイベントとして「清原スポーツの祭典」を企画し，平成28年に，作新学院大学の太田正氏を実行委員長として迎え，清原地域スポーツクラブいきいきエンジョイ清原などの清原地区の各団体とプロスポーツチームで構成する「清原スポーツ祭典実行委員会」を設立した。平成28年11月に第1回祭典を開催した。

作新学院大学のサッカー場や体育館などのス

ポーツ施設を利用し，各プロスポーツチームによる教室や地域主催のバドミントンやグラウンドゴルフなどの各種体験コーナーを設け，子どもから高齢者まで，約100人が大変嬉しそうに体験することができた。



写真7 スポーツ祭典開会式
出典：清原地域振興協議会

6 課題と今後のまちづくりの展望

これまでも清原地区は，協働によるまちづくりのトップリーダーとして活動してきた。現在，テクノ地区の若年世帯の人口増加や旧来の住宅団地の高齢化，L R T導入など，地域を取り巻く環境は大きく変化している。

このような中，清原地区市民センターは，更なるまちづくりを推進するため，子育て支援，地域福祉力の向上，L R T導入を見据えた地域活性化策に取り組んでいく。こうしたさまざまな地域課題の解決に向けて，作新学院大学の専門性や学生の持つパワーを積極的にまちづくりにつなげていきたい。

7 おわりに

清原地区市民センターは，今後も作新学院大学をはじめ各団体との連携を図り，学・農・商・工等の清原地区のさまざまな資源や特色を活かした「オール清原」のまちづくりに取り組んでいきたい。